

# 第66回定時株主総会招集ご通知

## インターネット開示情報

### 目 次

---

連結計算書類【連結注記表】…………… 1 ページ

計 算 書 類【個別注記表】…………… 6 ページ

---

上記事項の内容は、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、  
当社ウェブサイト (<http://www.kikusui.co.jp>) に掲載するこ  
とにより、株主の皆様提供しているものであります。

平成29年 6 月12日

菊水電子工業株式会社

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

### 1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数…… 3社

連結子会社の名称…… フジテック株式会社  
菊水貿易（上海）有限公司  
KIKUSUI AMERICA, INC.

### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、菊水貿易（上海）有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券…… 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は主として原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品・製品・原材料…… 主として総平均法

仕掛品…… 個別法

貯蔵品…… 主として最終仕入原価法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産…… 主として定率法によっております。

(リース資産を除く)

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8～38年

機械装置及び運搬具 4～11年

工具、器具及び備品 2～15年

また、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、償却可能限度額まで償却が終了した連結会計年度の翌連結会計年度から5年間にわたり備忘価額まで均等償却する方法によっております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

- ② 無形固定資産 …… 定額法によっております。  
(リース資産を除く) ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)による定額法によっております。
- ③ リース資産 …… 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金 …… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。
  - a 一般債権  
貸倒実績率法によっております。
  - b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等  
財務内容評価法によっております。
- ② 賞与引当金 …… 当社及び連結子会社において、年俸制対象者を除いた従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上しております。
- ③ 役員賞与引当金 …… 当社及び国内連結子会社において、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。
- ④ 製品保証引当金 …… 当社において、製品の無償保証期間中の修理費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎として当連結会計年度の発生見込額を計上しております。また、個別の無償保証に係る修理費用の支出に備えるため、その見積額を計上しております。
- ⑤ 役員退職慰労引当金 …… 国内連結子会社において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

- ① 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

一部の特注品を対象として、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の場合には工事完成基準を適用しております。

(7) その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

5. 会計方針の変更

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、当連結会計年度の期首において、繰延税金負債(固定負債)が792千円減少し、利益剰余金が792千円増加しております。

## 6. 表示方法の変更

当連結会計年度より明瞭性を高めることを目的として、次のとおり連結計算書類の表示方法を変更いたしました。

(連結貸借対照表)

### ①「繰延税金資産」、「保険積立金」、「差入保証金」

前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「その他」として一括して掲記しておりました「繰延税金資産」、「保険積立金」、「差入保証金」は、当連結会計年度より区分掲記することといたしました。

なお、前連結会計年度の「繰延税金資産」は1,749千円、「保険積立金」は686,948千円、「差入保証金」は17,305千円であります。

### ②「未払金」、「未払消費税等」

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」として一括して掲記しておりました「未払金」、「未払消費税等」は、当連結会計年度より区分掲記することといたしました。

なお、前連結会計年度の「未払金」は210,133千円、「未払消費税等」は80,859千円であります。

### ③「長期未払金」、「長期預り保証金」

前連結会計年度において、「固定負債」の「その他」として一括して掲記しておりました「長期未払金」、「長期預り保証金」は、当連結会計年度より区分掲記することといたしました。

なお、前連結会計年度の「長期未払金」は80,467千円、「長期預り保証金」は254,543千円であります。

(連結損益計算書)

「売上割引」、「為替差損」

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」として一括して掲記しておりました「売上割引」、「為替差損」は、当連結会計年度より区分掲記することといたしました。

なお、前連結会計年度の「売上割引」は13,757千円、「為替差損」は3,005千円であります。

(連結貸借対照表に関する注記)

- 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 有形固定資産の減価償却累計額 4,027,566千円
- 過年度に取得した有形固定資産について、国庫補助金による圧縮記帳額は、建物及び構築物10,190千円であり、この圧縮記帳額を控除しております。
- 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。当連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

|              |             |
|--------------|-------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 1,000,000千円 |
| 借入実行残高       | 一千円         |
| 差引額          | 1,000,000千円 |

(連結損益計算書に関する注記)

- 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額  
売上原価 22,945千円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

- 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式

9,900,000株

- 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成28年6月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 185,473        | 22              | 平成28年3月31日 | 平成28年6月30日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成29年6月29日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- ① 配当金の総額 183,888千円
- ② 1株当たり配当額 22円
- ③ 基準日 平成29年3月31日
- ④ 効力発生日 平成29年6月30日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

- 当連結会計年度末の新株予約権(権利行使期間の初日が到来していないものを除く。)の目的となる株式の種類及び数

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

- 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用について、余資は安全性、流動性及び収益性等の各要素を総合的に考慮した上で、金融商品市場の状況等を踏まえて運用し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引は利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループは、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとの期日及び残高を管理するとともに、財政状態等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式、純投資目的の株式、債券及び投資信託が主な内訳であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが6か月以内の支払期日であります。

また、営業債務は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）をご参照ください。）。

（単位：千円）

|                            | 連結貸借対照表<br>計上額 | 時価        | 差額 |
|----------------------------|----------------|-----------|----|
| (1) 現金及び預金                 | 2,957,843      | 2,957,843 | —  |
| (2) 受取手形及び売掛金              | 2,345,074      | 2,345,074 | —  |
| (3) 有価証券及び投資有価証券<br>其他有価証券 | 1,032,133      | 1,032,133 | —  |
| 資産計                        | 6,335,051      | 6,335,051 | —  |
| 支払手形及び買掛金                  | 555,380        | 555,380   | —  |
| 負債計                        | 555,380        | 555,380   | —  |

（注1）金融商品の時価の算定方法及びに有価証券に関する事項

資 産

（1）現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（2）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（3）有価証券及び投資有価証券

    其他有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、投資信託については、公表されている基準価額によっております。

負 債

支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

| 区分    | 連結貸借対照表計上額 |
|-------|------------|
| 非上場株式 | 19,500     |

これについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積るには過大なコストを要すると見込まれます。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「資産(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

（賃貸等不動産に関する注記）

該当事項はありません。

（1株当たり情報に関する注記）

|               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産   | 1,074円36銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 39円79銭    |

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

該当事項はありません。

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式 …… 移動平均法による原価法

② その他有価証券 …… 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

① 商品・製品・原材料 …… 総平均法

② 仕掛品 …… 個別法

③ 貯蔵品 …… 最終仕入原価法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 …… 定率法によっております。

(リース資産を除く)

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8～38年

機械及び装置 11年

車両運搬具 4年

工具、器具及び備品 2～15年

また、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、償却可能限度額まで償却が終了した事業年度の翌事業年度から5年間にわたり備忘価額まで均等償却する方法によっております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

(2) 無形固定資産 …… 定額法によっております。

(リース資産を除く)

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)による定額法によっております。

(3) リース資産 …… 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金 …… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

① 一般債権

貸倒実績率法によっております。

② 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

財務内容評価法によっております。

(2) 賞与引当金 …… 年俸制対象者を除いた従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

(3) 役員賞与引当金 …… 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(4) 製品保証引当金 …… 製品の無償保証期間中の修理費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎として当事業年度の発生見込額を計上しております。また、個別の無償保証に係る修理費用の支出に備えるため、その見積額を計上しております。

- (5) 退職給付引当金 …… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
  - ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

#### 4. 重要な収益及び費用の計上基準

一部の特注品を対象として、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の場合には工事完成基準を適用しております。

#### 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。個別貸借対照表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額から年金資産の額を控除した額を退職給付引当金に計上しております。

##### (2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### 6. 会計方針の変更

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を当事業年度から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前事業年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、当事業年度の期首において、繰延税金負債(固定負債)が792千円減少し、利益剰余金が792千円増加しております。

#### 7. 表示方法の変更

当事業年度より明瞭性を高めることを目的として、次のとおり計算書類の表示方法を変更いたしました。

(貸借対照表)

「保険積立金」

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」として一括して掲記しておりました「保険積立金」は、当事業年度より区分掲記することといたしました。

なお、前事業年度の「保険積立金」は686,948千円であります。

(損益計算書)

「売上割引」

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」として一括して掲記しておりました「売上割引」は、当事業年度より区分掲記することといたしました。

なお、前事業年度の「売上割引」は13,597千円であります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 3,862,885千円
3. 過年度に取得した有形固定資産について、国庫補助金による圧縮記帳額は、建物10,190千円であり、この圧縮記帳額を控除しております。
4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務
  - (1) 短期金銭債権 165,241千円
  - (2) 短期金銭債務 20,388千円
5. 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

|              |             |
|--------------|-------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 1,000,000千円 |
| 借入実行残高       | 一千円         |
| 差引額          | 1,000,000千円 |

(損益計算書に関する注記)

- 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額  
売上原価 22,538千円
- 関係会社との取引高  
営業取引による取引高  
売 上 高 847,880千円  
仕 入 高 144,354千円  
そ の 他 営 業 費 用 106,245千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

- 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数  
普通株式 1,541,449株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

1. 流動の部

繰延税金資産

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 研究開発費           | 259,100千円 |
| 賞与引当金           | 44,153千円  |
| 原材料評価損          | 10,379千円  |
| 未払事業税           | 17,252千円  |
| 未払社会保険料         | 6,663千円   |
| 役員賞与引当金         | 4,928千円   |
| 一括償却資産損金算入限度超過額 | 2,811千円   |
| 未払事業所税          | 1,771千円   |
| その他             | 3,994千円   |
| 繰延税金資産小計        | 351,055千円 |
| 評価性引当額          | △168千円    |
| 繰延税金資産合計        | 350,886千円 |

2. 固定の部

繰延税金資産

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 退職給付引当金         | 59,579千円  |
| 長期未払金           | 24,623千円  |
| 関係会社株式評価損       | 24,480千円  |
| 会員権評価損          | 12,767千円  |
| 投資有価証券評価損       | 7,755千円   |
| 一括償却資産損金算入限度超過額 | 1,261千円   |
| その他             | 4,826千円   |
| 繰延税金資産小計        | 135,293千円 |
| 評価性引当額          | △68,833千円 |
| 繰延税金資産合計        | 66,460千円  |

繰延税金負債

|              |           |
|--------------|-----------|
| 買換資産圧縮積立金    | 143,508千円 |
| 特別償却準備金      | 575千円     |
| その他有価証券評価差額金 | 160,047千円 |
| 繰延税金負債合計     | 304,131千円 |
| 繰延税金負債の純額    | 237,671千円 |

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産 1,057円57銭
- 1株当たり当期純利益 53円38銭

(重要な後発事象に関する注記)  
該当事項はありません。

(その他の注記)  
該当事項はありません。